

環境と健康

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

佐藤 均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL <http://www.kanhokyo.or.jp/>

ご存じですか『ひろしまマイ・タイムライン』 災害時、いつ・どのように行動しますか



梅雨の季節です。皆さんは防災・減災に取り組んでいますか。個々の準備も大切ですが、地域で備える事も大事です。環保協と公衛協は、平成30年7月豪雨を受けて、公衆衛生活動に防災・減災という視点を追加し、共助井戸や災害ごみ、消毒などの取り組みを強化し、健康で住みよい地域づくりを目指しています。

皆さんは『ひろしまマイ・タイムライン』をご存じですか。広島県危機管理監が、風水害が発生する前の避難を呼びかけているもので、個人や家族、地域などであらかじめ避難に備え、「いつ・どのように行動するか」を決めておき、有事の際に迅速に行動できるようにするためのもので、いわば避難のスケジュール表です。

県のホームページで、デジタル・手書きに対応した書式の提供や、作成例が動画などを交えて紹介されています。ペットを飼っている方

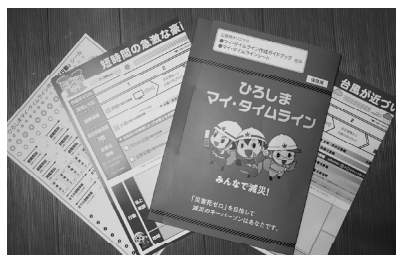
やマンションの高層階にお住まいの方などの作成例も掲載されています。

広島県のホームページ(上記QRコード)から説明動画や資料を確認し、我が家の『マイ・タイムライン』を作成してみましょう。

各家庭のタイムラインはもちろん、地域防災を考えるうえでも利用できるツールです。

高齢者や子どものいる家庭は、避難に時間がかかります。住んでいる地域の災害リスクを知り、いざという時、自分や家族、近隣の方々のいのちを守れるよう、平時から防災・減災に取り組ましましょう。

(地域支援課)



市町によって、学校で配布される

海洋プラスチックごみによる環境汚染が世界的な問題となっている中、広島県においてもこの問題の課題解決に向けて実効的な対策を強化するため、海洋プラスチックごみゼロ宣言を行うとともに、宣言の実現に向けて企業・団体などを参画メンバーとするプ



ラットフォームを新たに設立しました。まず、6月23日の設立記者会見において、湯崎知事から「2050輝くGREEN SEA 瀬戸内海ひろしま宣言」を行いました。この宣言には、第5次広島県環境基本計画に掲げる「2050年までに新たに瀬戸内海に流出するプラスチックごみの量をゼロとする」ことを目指し、海洋生活分解性プラスチック等の開発・普及促進、プラス

チックに係る資源循環の促進及び多様な主体と協働した海岸清掃など、本県の宝である瀬戸内海の環境保全に向けた取り組みを、企業や関係府県・市町等と連携しながら、本県が先頭に立ち、推進していくことが明記されています。

併せて、宣言の実現に向けて、飲料メーカー等の製造業から小売・流通業まで、幅広い業種の企業・団体等を参画メンバーとする「GREEN

SEA 瀬戸内海ひろしま・プラットフォーム」を新たに設立しました。このプラットフォームでは、事業者等と連携して、プラスチックの使用量削減やプラスチックごみの流出防止などの具体的な対策を検討・実施してまいります。今後は、プラットフォ

ームの参画団体を広く募集し、県民を巻き込んだ世論醸成を図っていく予定です。

海洋プラスチックごみの多くは、日常生活や事業活動に起因しており、このことを一人ひとりが理解し、ライフスタイルや事業活動を見直していくことが求められています。次世代へ、美しく恵み豊かな瀬戸内海を継承していくために、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

(広島県環境保全課)

海洋プラスチックごみゼロ宣言 県が新プラットフォームを設立

《検討・実施する対策(4つのキーアクション)》

①プラスチックの使用量削減 ・ワンウェイプラスチックの削減や代替素材(海洋生分解性プラ・紙等)の開発・普及促進 ・プラスチック資源のリサイクルの拡大、高度化(食品トレー・PETボトル等)等	②プラスチックごみの流出防止 ・ペットボトル自動回収機の設置(コンビニ等) ・空容器ボックスの異物混入対策の検討、実証 ・デジタル技術の活用(ごみ箱センサー等) ・ナッジ(行動変容)を活用した啓発活動等
③プラスチックごみの清掃・回収 企業、清掃団体等と連携した効果的な清掃、回収等 	④情報の収集、発信、共有 ・各種イベントやHPでの情報発信(先行事例、プラットフォームでの取り組み、参画企業等の取り組み等) ・先進的な取り組みの研究、紹介 ・世論醸成に向けた方法の検討、実施 ・環境教育等

さんせんか 琴線歌

緊急事態宣言下の5月17日、平和記念公園で開催された東京2020五輪聖火セレモニーに参加させていだいた。新型コロナウイルスの急速な感染拡大の中、悩んだ末の参加だった。公道でのリレーは中止、トーチで聖火をつなぐ点火セレモニーとして行われた。7年前

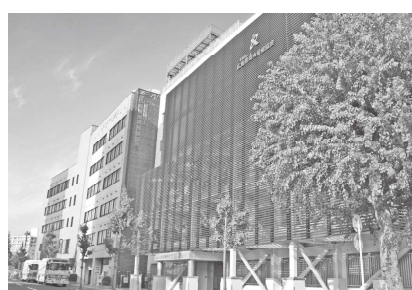
原爆と新型コロナと東京五輪

の心がけで感染者数は確実に減少する。

た方々への供養になればと、聖火ランナーに応募した。1945年、長崎の医学生だった父は、実家のある広島への原爆投下の悲報を聞き、列車で広島に向った矢先に長崎で被爆した。祖父や父の学友が命を絶やす中、九死に一生を得た父の命を受け継ぐことができた。今コロナ禍にあつて、五輪や聖火リレーの開催に世論は揺れている。感染症対応に追われる医療・

る。感染したことに罪はないが、日常生活には責任がある▼原爆も新型コロナウイルスも同じ「命」の問題である。聖火を受け継ぐ時は「命をありがと」「渡す時は「命をよろしくお願ひします」と祈った。新型コロナウイルスの流行を抑え、五輪・パラリンピックが無事開催されることを願っている。一人ひとりができることはまだある。

麻布大学客員教授 野田衛



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 【大代表】 FAX:082(293)1520

かんぽきよう

検索

基本理念

~みんなの生命(いのち)をまもりたい~

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。



モデル事業参加公衛協募集

家庭で取り組む活動を提案

5月1日号で紹介したモデル事業の参加公衛協を募集しています。コロナ禍ということもあり、大勢で集まって活動をする機会が減っていますが、このモデル事業は各家庭で取り組める事業となっています。コロナ禍における新たな公衛協活動の展開策として、このモデル事業をご活用ください。

- STOP!フレイル事業
～自分に必要な取り組み発見～
- 食や運動、社会参加など11項目のチェックで、自身の心身の状態を定期的に確認する事業です。チェックをととして、自身に必要なフレイル予防の取り組みが見つかります。
- チェック後に取り組むフレイル予防策として、これまで公衛協で実施してきた「ウォーキング事業」や



(地域活動支援センター)

「食チェック事業」、「地域清掃活動」などを、改めて地域住民にPRするチャンスです。このモデル事業を活用して、地域住民の健康状況の把握と公衛協活動のPRを行ってみたいかがですか？

- 家庭の食品ロスチェック事業
～ごみ減量と防災～
- 食品ロスは、世界共通の大きな課題です。このモデル事業を通じて、まずは食品ロスについて知っている人を増やし、我が家の食料品の賞味期限をチェックして、家庭からの廃棄食品の削減に取り組めます。
- このモデル事業は、公衛協活動の新しい視点である「防災・減災」活動にも生かされます。災害の規模や地域にもよりますが、最低3日分から1週間分程度の食料の備えが必要と言われています。無駄なく備えられるよう、公衛協から住民に発信して、一緒に保存食料の棚卸を行ってみませんか。食べ物から、ごみの減量や防災を考えていきましょう。

コロナ禍における公衛協活動

昨年よりもコロナに対応

感染予防策を講じながらの公衛協活動も2年目に入りました。昨年は、多くの公衛協で活動が縮小されましたが、今年状況はどうなのか。広島県に緊急事態宣言が発令される直前の5月13日・14日にかけて、県内の26公衛協事務局に電話で聞き取り調査を行ったので、その結果を報告します。

調査では、総会など各種会議の開催、オンライン会議の実施、清掃・美化や研修の実施見込みについて聞いています。

○総会の開催状況
昨年は24公衛協が書面協議、2公衛協が対面実施でしたが、今年は19公衛協が書面協議、6公衛協が対面(予定含む)、1公衛協が検討中で、昨年度とほぼ同様の状況です。例年、総会時に当年度の推進委員が概ね選出されていますが、公衛協で選出の遅れなどが出ています。

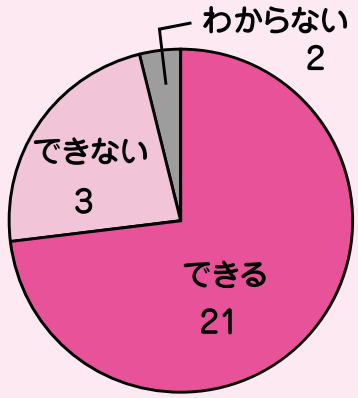
○オンライン会議への対応
昨年の調査では、8公衛協が対応可能、12公衛協が対応できないという結果でした。

○清掃・美化活動の実施
昨年は、4～5月の一斉清掃が実施されず、延期や自治会単位での実施など、対応が分かれた。今年、半数の13公衛協が実施予定としており、昨年よりも実施したい公衛協が増えています。

○基礎研修の開催
今年、時期をみて実施予定が10公衛協、実施しないが半数の13公衛協で、昨年よりも実施したい公衛協が増えています。

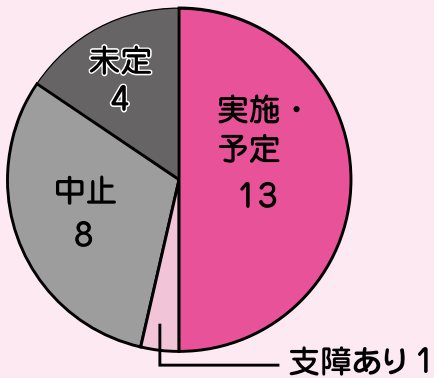
○その他、「事業の実施について、判断に困っている」「行政の指針が示される前に住民から問い合わせがあるので、その対応に追われている」「このように、安心して公衛協活動が展開できるには、地域活動支援センターなどのような支援が、公衛協の皆さまと一緒を考え、実践してまいります。(地域活動支援センター)」

○ 環境協と事務局がインターネットを使った会議はできますか。



- ・マイク・カメラの貸し出しがあれば可能
- ・機器の関係で他の業務と重なると難しい

○ 清掃・美化活動について、公衛協の主催事業は実施できますか



- ・6月は中止、秋の清掃は未定
- ・市町の一斉清掃は中止、地区レベルの美化は地区ごとに判断してもらっている

地域活動支援センターの主な行事予定(令和3年度)		
月	日	事業名(開催場所)
7	8日(木)・9日(金) *日帰り *変更	第59回環境保健夏季大学(グリーンピアせとうち(呉市))
	17日(土) *変更	地球温暖化防止活動推進員新規養成研修 前期(広島県公衆衛生会館(広島市))
	20日(火)	専門研修「海辺教室指導者養成コース」(さざなみ学校(三原市))
	29日(木)	専門研修「フレイル予防コース」(広島県公衆衛生会館(広島市))
	30日(金)	専門研修「フレイル予防コース」(環境協東部支所(福山市))
8	5日(木)	専門研修「広報・ツールづくりコース」(広島県公衆衛生会館(広島市))
	6日(金)	専門研修「広報・ツールづくりコース」(環境協東部支所(福山市))
	7日(土)	専門研修「広報・ツールづくりコース(SNS編)」(広島県公衆衛生会館(広島市))
	21日(土) *変更	地球温暖化防止活動推進員新規養成研修 中期(広島県公衆衛生会館(広島市))
	25日(水)	代表者会議専門部会①(環境) (広島県公衆衛生会館(広島市))
9	26日(木)	代表者会議専門部会①(健康) (広島県公衆衛生会館(広島市))
	27日(金)	代表者会議専門部会①(組織) (広島県公衆衛生会館(広島市))
	17日(金)	公衛協事務担当者会議②(広島県公衆衛生会館(広島市))
10	13日(水) *変更	専門研修「防災・減災コース」(広島県公衆衛生会館(広島市))
	14日(木) *変更	専門研修「防災・減災コース」(環境協東部支所(福山市))
11	11日(木)	第62回広島県公衆衛生大会(神楽門前湯治村(安芸高田市))
	19日(金)	瀬戸内海の環境保全に関する合同研修会(行橋市文化ホール(福岡県))
	24日(水)・25日(木) *日帰り	専門研修「企画づくりコース」(環境協東部支所(福山市))
12	1日(水)～2日(木) *宿泊研修	専門研修「企画づくりコース」(グリーンピアせとうち(呉市))
	8日(水)	代表者会議専門部会②(環境) (広島県公衆衛生会館(広島市))
	9日(木)	代表者会議専門部会②(健康) (広島県公衆衛生会館(広島市))
	10日(金)	代表者会議専門部会②(組織) (広島県公衆衛生会館(広島市))
	14日(火)	地球温暖化防止活動推進員新規養成研修 後期(広島県公衆衛生会館(広島市))
1	27日(木)	代表者会議定例会・募金委員会②(広島県公衆衛生会館(広島市))
2	10日(木)	脱温暖化推進員フォーラム2022(未定)
3	16日(水)	ブロック会議(広島県公衆衛生会館(広島市))
	17日(木)	ブロック会議(環境協東部支所(福山市))
	18日(金)	ブロック会議(みよしまちづくりセンター(三次市))

水中ドローンを導入 水中調査の効率化と付加価値向上へ

操縦士とはケーブルで繋がっている



トを要した海洋調査業務の省力化、安全性の向上、低コスト化を図ることが目的です。

水中ドローンでどのようなことができるのでしょうか。水中ドローンの得意分野は、水中で見る・測ることです。当会が導入した水中ドローンは、200mのケーブルが届く範囲で、水深150mまで自由に潜行し、流れがないところでは、どのような向きでも上下左右±1cmの誤差で姿勢を保持することができます。また、マイナス10〜60℃までの水温で、最長6時間稼働

します。暗所では6千ルーメンという非常に明るいライトを点灯し、高画質の動画・写真撮影が可能です。さらに、1メートル単位で構造物の大きさを測定することもできます。

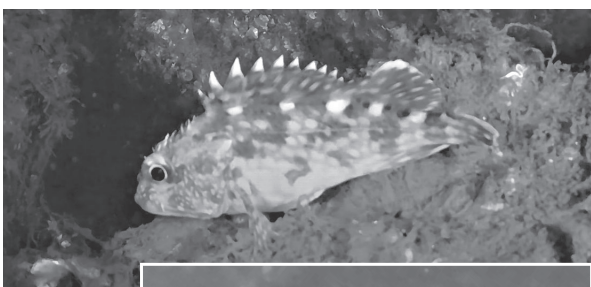
	潜水士	水中ドローン
水平遊泳	制限なし	操縦者から200mまで
垂直遊泳	～40m（特殊装備なし）	～150m
姿勢維持	上を向くことができない	全方向で可能
水温	高水温は不可	-10～60℃
危険、汚染水域	△	○
水中作業	○	△

現在行っている藻場の調査に加え、他に活用できる業務はないか、今後の利用可能性を模索しています。

（環境保全課 甲田和也）

が、③深くまで潜ることができる。④危険箇所でも調査できる。⑤魚が驚いて逃げないため、自然な行動生態が観察できるなどです（右下表参照）。

水中ドローンをご存知でしょうか。水中ドローンとは、操縦者が船上や陸上から操縦を行う水中ロボットのことを指し、水中撮影はもちろん、構造物の点検、調査、工事、水難救助、水産業など、さまざまな分野での利用が期待されています。



海中で撮影したカサゴ（上）やスズキ（右）。近づいても逃げないため、鮮明に撮影可能

脱温暖化センターひろしまの 活動紹介動画

総会は書面協議で実施 食品ロスと温暖化を学ぶ

5月14日に、TEAM MATEひろしま総会及び交流会の開催を予定していましたが、コロナウイルス感染症予防のため、総会は書面で行い、交流会はオンラインで開催しました。

交流会では、株式会社ハロース商品管理室長の太田光さんと、く

れ環境市民の会の青山範子さんに、食品ロス削減を目的とした「フ

ードドライブ」の活動を紹介していただきまし

た。廃棄する食品を

削減することは、廃棄処分となる食品の輸送に係るCO₂の削減や、焼却処分時のCO₂削減ができます。

食品ロスとは、本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食べ物のことです。

日本では平成30年度に、約600万トンの食品ロス（事業者から約324万ト、家庭から約276万ト）が発生したと推計されています。

実際に、1店舗で1日分に廃棄される食品

を太田さんに持参いただき、机に並べてみました。「フードドライブで、企業は廃棄処分費の削減ができる、地域では必要としている人たちが食品を利用して助かるという好循環が生まれます。

廃棄する食品の輸送や焼却にかかるエネルギー削減に繋がるので、地球温暖化対策地域協議会（TEAM）は食品ロスをテーマに企業と地域の人たちの間をつないでCO₂削減に取り組んではどうですか」

調理による「エコのみ焼き」、ポリ袋を使った調理による「ごはん」を紹介しています。

エネルギー・水・ごみの削減を考えながら調理をすることは、CO₂削減に大きな効果があります。

「もみ殻くん炭」とは何か、「もみ殻くん炭」を活用した土づくりがなぜCO₂削減につながるのか、「もみ殻くん炭」の作り方を交えて動画で説明しています。

真つ黒な炭の美しさもご覧ください。

「冷蔵庫調査」生活から地球温暖化を止める取り組みとして、なぜ「冷蔵庫調査」をしているのかを、動画で紹介しています。併せて、上手な冷蔵庫の使い方も紹介していますので、ご覧ください。

TEAM MATE ひろしま



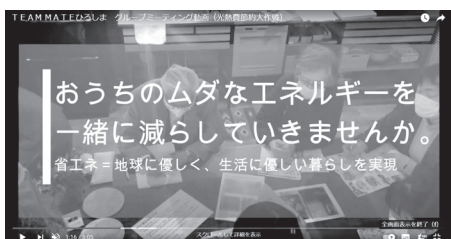
交流会の様子

（ごとう場合、段ボールにすしのミス・汚れがあっても、中身が問題なければそのまま買う）、賞味期限の近い値引き商品を買う」など、行動してみよう。

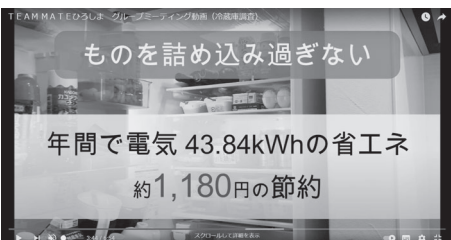
交流会の様子は動画（約1時間）で配信しています。上記QRコードからご覧ください。



並べた食品について説明する太田さん



上から、光熱費節約大作戦！、エコクッキング、くん炭拡大プロジェクト、冷蔵庫調査の各動画





受付カウンターには、検温カメラ、消毒液、太陽光発電モニターを設置。

新型コロナウイルス禍の一刻も早い終息を願いつつ、(財)広島県環境保健協会 東部

分析調査・食品衛生検査

お気軽にご相談ください

環保協の
環境生活
センター

② 東部支所

最近ではテレビ、ラジオでのCMの効果もあり、問い合わせも増えてきました。飲料水・水質・土壌・大

東部支所職員は現在12名で、県東部エリアを中心に岡山・四国方面へも業務を展開しており、広島市内の本部との協働で、環境・生活・衛生分野の業務と公衆衛生推進協議会の活動支援を行っています。

近年、全国的な異常気象や自然災害の二コースも多いですが、平成30年7月の豪雨では、芦田川沿いの浸水等の被害が全国報道されました。東部支所も床上まで浸水しましたが、災害対応訓練どおり組織的に対応し、検査事業を継続することができました。

支所(以下「東部支所」とします。)の紹介をさせていただきます。東部支所は福山市山手町、「芦田川」の右岸土手沿い、新幹線と交差する辺りに位置します。土手からも3階建ての淡いブルーの建物を確認できます。屋上には10キロワットの太陽光発電パネルを設置し、発電した電力は施設で利用しています。

気などの分析調査、食品・衛生関連の検査など、お気軽にご相談ください。経験豊富な「かんほきよう」の蓄積された技術・知識が、皆さまのお役に立てると思います。皆さまが安全・安心で、豊かに暮らせる地域社会の実現に向け、より信頼される検査機関として、東部支所職員一同これからも研さんを積んでまいります。(東部支所 参事 佐藤道博)



当協会はこの取り組みを応援しています

さまざまな知識・技術の向上に 時勢に合わせたテーマで開催

「専門研修」は、公衆衛生推進委員や地球温暖化防止活動推進員の力量形成および専門的な知識・技術の習得の場として、市町・支部・地区単位の役員や、事務担当者、活動リーダーを対象に、環保協が毎年テーマを変えて開催しています。

令和3年度は、「広報・ツールづくりコース」に加えて、新たに「海辺教室指導者養成コース」「フレイル予防コース」を表のとおり開催します。

【海辺教室指導者養成コース】

現在、県内各地で開催されている水辺教室ですが、その歴史は昭和59年3月にまでさかのぼります。県内で初めての開催は、因島市(現尾道市)大浜海岸ですが、スタートは海辺でした。

これまで、水辺教室指導者養成コースは何度か開催していますが、海辺教室の開催を狙ったものは初めてとなります。

「海ごみ」が注目されている昨今、ぜひ取り組んで欲しいテーマです。

【フレイル予防コース】

今年度、初めて企画したコースです。フレイルについての基礎知識を得て、公衛協のどの活動がフレイル予防になっているか、予防するために何をすればよいのか、今後公衛協に何ができるかを考えてもらいます。

また、身近な物を使った予防法を体験することで、話題づくり、住民への啓発に活用



令和2年度の広報・ツールづくりコース

できるよう学びます。

【広報・ツールづくりコース】

広報・ツールづくりコースは、これまでと同様に実施します。紙媒体のチラシやたよりといった広報はもちろん、Facebook についても取り上げ、記者の養成も行っています。地域

の話題を新鮮なうちに情報発信できるよう、体験を交えて学習します。

(地域活動支援センター)

○ 今後の研修予定 ○

7/20 (火)	海辺教室指導者養成コース (三原市)
7/29 (木)	フレイル予防コース (広島市)
7/30 (金)	フレイル予防コース (福山市)
8/5 (木)	広報・ツールづくりコース (チラシ編) (広島市)
8/6 (金)	広報・ツールづくりコース (チラシ編) (福山市)
8/7 (土)	広報・ツールづくりコース (SNS 編) (広島市)

コミュニケーションで地域活性化

経験が公衛協の活動現場に

協会には、事業を担う3つのセンターがあり、次の役割を担っています。

●地域活動支援センター

公益事業部門として、地域における健康づくりや環境づくりを支援

●健康科学センター

人間ドックや保健指導などの予防医学をとおり、県民の皆さまの健康長寿を実現

●環境生活センター

飲料水や食品、環境保全に関わる検査・分析をとおり住みよい環境づくりを実現

それぞれの事業は提供するサービスや対象が異なりますが、どの事業も職員の専門や資格が大きな強みです。

今回の連載では、いろいろな特技・資格を持った当協会の職員の紹介をとおして、当協会の各事業の専門性をご紹介します。



地域支援課 / 馬場田

第1回目は、地域活動支援センターの馬場田真主任です。馬場田さんは、2008年4月に当協会に入職し、地域活動支援センターに配属され、

現在に至るまで公衛協活動の支援業務に携わっています。プライベートでも、地域活動に積極的に係わり、それが新聞やテレビで紹介されるなど大いに活躍されています。

馬場田さんは、広島市安佐北区大林地区で、3年前から大勢の仲間と共に、平成30年の豪雨災害で被災した田んぼを復旧し、休耕地で稲作を再開して酒米づくりに挑戦しています。この酒米づく

と環境の良さに魅力を感じ、2020年に広島市安佐区から安佐北区大林地区に家族6人で移住しました。特産品の「日本酒づくり」をキーワードに広がるコミュニケーションを地域活性化につなげようとしています。

(総務課 森道史)



約3人に1人の割合で自宅での飲酒量が増加しているそうです(キリンホールディングス(株)全国調査より)。

コロナ禍で飲酒量増加 健康を害さないよう工夫を

話題の健康づくり
アラカルト

38 飲酒

新型コロナウイルス感染症の外出自粛に伴う自宅での飲酒機会の増加や、在宅勤務でのストレスや今後の不安感などが背景にあり、飲み過ぎるという方が多いようです。気温の上昇とともにお酒が進む季節となってきた今、コロナ禍での飲酒について見直してみよう。

飲酒量の増加の1つの要因となっているのが、最近お店でよく見かけるアルコール度数の高いストロング系酎ハイです。苦みを抑え、炭酸で口当たりが良く、ついジューズ感覚で飲んでしまいがちですが、ビールに比べて1.4倍〜1.8倍のアルコール度数があり、飲み過ぎには注意が必要です。購入時は、アルコール度数の表示を確認しましょう。

また、長時間のダラダラ飲みも飲酒量増加の要因となっています。自宅で時間を気にせず、に飲んだり、オンライン飲み会など、お酒の楽しみ方も変化しています。時間を決めて飲むことが大切です。

最近では、ノンアルコール飲料も本格的な味わいのものや、健康志向の高まりから「トクホ」の認定を受け機能性表示があるものなど、選択肢が増えています。それらを上手に

利用することで、飲酒量を減らすことにつながります。



飲酒時の工夫5箇条

- 一. 適量飲酒を守る(1日1合未満)
- 二. 空腹時を避け、食事と一緒にゆっくり楽しむ
- 三. 肝臓でのアルコール分解を助ける魚介類・大豆製品などの良質のタンパク質や、ビタミン・ミネラルが豊富な野菜や海藻類を摂取する
- 四. 水分を十分に補給する(飲酒前・飲酒中)
- 五. 休肝日を週2日以上作る

飲み過ぎて健康を害さないよう、ライフスタイルの変化に合わせて「コーノーマル」の飲み

方で、お酒と楽しく上手に付き合っていきたい。 (健康支援課 西川真由子)

県は、食品衛生基準を満たした製造・加工施設について、独自に認証する制度を実施しています。適合した施設は、商品に「認証マーク」を貼ることができます。当協会は認証機関として、食品衛生管理の認証・更新審査や指導などを行っており、このシリーズでは、当協会が認証した事業者の声を紹介し、食品衛生管理の重要性を伝えていきます。



■業務の内容は？
麺類の製造と卸売りをしています。飲食店や給食センターなどの取引が中心なので、一般の方は当社の製品を目にするのは少ないかもしれませんが、1度は口にされていると思います。
また、イベントやバザー会場へ食材や機材

25 升萬食品有限会社

登録日:2021年5月20日
所在地:広島市西区中広町3-9-10
創業:昭和4年
話し手:代表取締役社長 堀 誠一様

ゼロからの衛生管理導入

知識と意識で継続の仕組み

求められるようになるべく、準備を進めてきました。社会情勢を考えると、食品衛生に対する考え方がシビアになってきており、認証を取得するのは今だと考えました。

から清掃の徹底、記録管理などを開始しました。全ての従業員が衛生管理の知識を習得し、意識の向上を図ることで、継続的に衛生管理に取り組めるよう、指導にも力を入れました。

に、お客さまから「おいしい」と言っていただけののがとてもうれしいです。これからも、安全・安心な商品を提供し、当社の製品を楽しんでいただきたいと思います。

の搬出入、貸し出し、スタッフの応援なども行っています。
■認証を受けようと思っただけじゃ、HACCP義務化がきつかけです。取引先から衛生管理の導入を

■自ら設定した衛生管理のポイントは、ゼロからのスタートでした。3年かけて全ての要求事項を満たせるよう少しずつ着実に取り組み、1年目はマニュアル作り、2年目

■今後のステップアップ
これからの事業展開も考え、総務部門の認証取得を計画しています。
■消費者の皆さまへ
イベント出店の際

もつと皆さまに当社や当社の製品を知っていただこうと、4月からSNSでの情報発信を開始しました。ツイッター・インスタグラム・フェイスブックをご覧いただき、ぜひ当社の麺を利用している飲食店に足を運んでみてください。
インタビュー:高橋 記事:馬場田

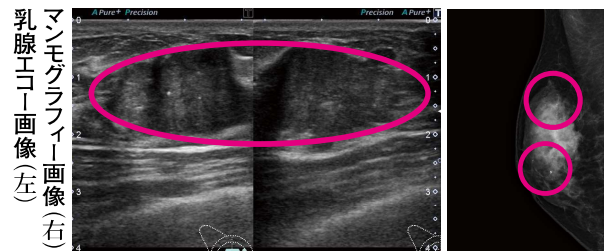


33 乳がん検診

現在、乳がん検診のガイドラインでは、40歳以上の方は2年に1度、マンモグラフィによる検診を受けることが望ましいとされています。

マンモグラフィ検査は乳腺エコー検査と比較して、石灰化した病巣の発見に優れていることが統計学的にも証明されています。しかし、ご存じの方も多いように痛みを伴い、乳

2年に1度定期的に 併用検診で精度の高い検査を



腺の量によって病変が見えにくい場合があります。乳がんは発見しにくいという欠点があります。ここで、当会乳がん

検診で実際にあった事例を紹介します。51歳の女性に併用検診(マンモグラフィ検査+乳腺エコー検査)を実施しました(画像参照)。マンモグラフィ検査では、複数の石灰化が見られ、経過観察とされました。しかし、乳腺エコー検査では石灰化とは異なる病変が指摘され、乳がんと診断されました。

また、乳腺エコー検査で異常なしとされている場合、マンモグラフィ検査で悪性所見が疑われ、乳がん発見につながった例もあります。一般的に、二つの検査

を併用することで早期乳がん発見率が高くなると言われています。乳がんは、早期発見できれば治療できる病気です。コロナ禍で検診を受けることをためらわれるかもしれませんが、当会では検査装置の消毒や定期的な換気など、充分な感染防止対策を実施しています。

検診を先延ばしにせず、定期的な受診をお勧めします。その際、『併用検診』を選択いただくと価格の割引もありますので、ぜひお問い合わせください。(臨床検査課 山田真理子)

ポスター・標語コンクール開催

全26公衛協が参加

今年度は環境と健康のポスター・標語コンクール事業のテーマが異なります。みんながより行動に移しやすいメッセージが集まるように、環境分野は「守ろう美しい地球」、健康分野は「がんばろう健康生活」にしました。この事業は、夏休みの宿題として募集し、毎年3万点以上の作品が集まります。集まった作品は、公衛協で1次選考して2次選考に推薦する作品を決め、当協会の2次選考で選考委員が最優秀賞、特別賞、優秀賞、奨励賞の各賞を決定します。入選作品には、トロフィーと賞状、副賞を贈呈し、最優秀賞、特別賞の受賞者は11月に開催する広島県公衆衛生大会の席上で表彰式を行います。



毎年少しづい、審査にも力が入る

今年度は、全ての公衛協が参加の予定です。新しいテーマでどんな作品が集まるか、楽しみです。

(地域支援課)

ごみゼロ・クリーンウォークは、1992(平成4)年から、きれいなひろしま・まちづくり市民会議が実施している取り組みで、まちの美化意識を高めたり、社会的ルールの定着をねらいに市民・事業者・行政が一体になって散乱ごみ開放キヤンペーンを実施しているものです。

例年、市内の各地に設けられた拠点から中央公園に向けて大勢でごみ拾いをしながら行進し、取り組みのPR

ごみゼロ・クリーンキャンペーン

昨年に引き続きコロナで中止

をしてきました。昨年度は、コロナ禍

拠点を設けて、重点的に清掃する形態で行われることになりました。当会は、拠点運営を手伝う準備を進めていました。しかし、県に緊急事態宣言が発令され、感染拡大が収まらない状況が継続していることから、中止となりました。

一斉清掃活動さえできない状況は残念ですが、次年度は気持ちよく美化意識の向上に向けた啓発ができることを祈念しています。

(総務課)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療薬として、イベルメクチンが注目されています。イベルメクチンは、静岡県のゴルフ場の土壌の細菌をもとに開発され、初めは動物用駆虫薬でした。1987年からは熱帯地方の住民に無償で配布され、熱帯病撲滅への貢献により、開発者の大村智博士はノーベル生理学・医学賞を受賞されました。近年では、インフルエンザ、HIV、狂犬病などさまざまなウイルスの増殖を抑制することが報告されており、現在 COVID-19 に対する医師主導型治験も進行中です。

薬の研究開発には2通りあり、実験室で作った化合物と、自然の生物から探す方法です。イベルメクチン、漢方ともに後者であり、分か

っていないこともあります。年月を経ても新しい発見があることは、自然由来の物質の魅力です。イベルメクチンは長い間多くの人に使用され、安全性も確立されており、この点でも漢方と近いものを感じます。しかし日本



の薬の値段は一般に、新薬は高く、古い薬は年々引き下げられていきます。古くからある安全で優れた薬が、採算の問題で製造中止になることや適応追加をあきらめることは、大変残念なことです。

現在ワクチンの接種が始まっていますが、日本で承認されているのはm-RNAとウイルスベクターという新しいタイプのものになります。従来の不活化ワクチンより副反応が強く、長期的な体への影響も未知のため、不安の声も聞かれます。各個人の事情も違いますので、効果と副反応のバランスを考えて接種の判断をすればよいと思います。また接種後も感染のリスクはあるため、感染

イベルメクチンと漢方薬

ワクチン接種後も要感染予防対策



予防対策は変わらず必要となります。

(健康科学センター 診療所長 武生 英一郎)

(2021年5月1日発行第617号に、誤って「このシリーズ終わり」と掲載してしまいました。読者の皆さま、ならびに関係各位に深くお詫び申し上げます。)

COOL CHOICEにご賛同をお願いします!

地球温暖化対策のために、今できる「賢い選択」。

COOL CHOICE とは、2030 年度に温室効果ガスの排出量を 2013 年度比で 46%削減するという目標達成のため、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしているという取り組みのことです。

スマートフォンやタブレット端末で、左の QR コードを読み取り、COOL CHOICE ホームページ内の登録画面で賛同をお願いします。

ぜひ「COOL CHOICE」にご参加ください! (脱温暖化センターひろしま・環境省)



令和3年度 地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、令和3年度で62回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)

9,330,795円

(令和3年度年間実績)



環境協に配分された募金は、以下のような事業に活用しています。

【学習教材貸出事業】

環境づくりや健康づくりに関する各種グッズの貸出をしています。貸出グッズの一覧は、当協会ホームページよりご覧いただけます。(http://www.kanhokyo.or.jp/)

◆貸出グッズのご案内◆ コミュニティパネル

3R パネル
広島県のごみの現状パネル
データを更新しました。



市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	988,400	74.4
海田町	990,000	42.9
熊野町	0	0
坂町	0	0
江田島市	0	0
竹原市	0	0
大崎上島町	0	0
大竹市	0	0
廿日市市	2,318,390	69.7
廿日市市大野	0	0
廿日市市佐伯	0	0
廿日市市吉和	0	0
廿日市市宮島	0	0
安芸太田町	0	0

市町別一覧表

※この表は、令和3年5月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	0	0
安芸高田市	0	0
東広島市	0	0
三原市	1,124,582	76.7
世羅町	0	0
尾道市	1,249,400	29.3
福山市	2,590,410	30.4
府中市	0	0
神石高原町	0	0
三次市	0	0
庄原市	0	0
呉市	0	0
その他	69,613	104.9
合計	9,330,795	18.4